

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170101117), 法人名 (株式会社 二幸), 事業所名 (グループホーム ひまわりⅡ), 所在地 (北海道札幌市中央区南29条西10丁目7番1号), 自己評価作成日 (平成30年8月20日), 評価結果市町村受理日 (平成30年10月9日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一日一日それぞれの入居者の方に合わせて、ゆったり過ごせるよう努めています。近隣の方とも良い関係を築きながら、これからも地域に根ざした明るく楽しいホームになるよう努めていきたいと思ひます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_02_2_kihon=true&JigyosyoCd=0170101117-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成30年9月20日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道から一本中に入った静かな住宅街にあり、商店や警察署、小学校、バス停にも近く利便の良い立地である。1階が事務所、2、3階が居間と居室になっており、エレベーターや5カ所のトイレ、日差しの取り込みや風通し良い間取りなど、小規模ながら利用者が快適に過ごせるよう工夫された住環境である。近隣地域とは長年の良好な関わりから、気軽に介護相談に乗るなど自然体の付き合いが交わされ、運営推進会議の協力や災害時の一時避難場所の申し出も頂いている。医療面では、協力医療機関と随時相談できる体制、月6回の看護師の訪問、職員同行の通院支援など、きめ細かく対応している。また、食の満足感を大切にしており、職員も同席同食で和やかな会話も美味しさに繋がり、日々の食生活をはじめ誕生会や季節行事でも楽しめる支援に取り組んでいる。理念の実践に向け職員が心一つにして取り組む気概が窺われ、1ユニット9名の利用者に寄り添い、アットホームで安らぎのある暮らし創りをしている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ひまわりⅡの独自の理念を作り、玄関に掲げている。その理念を実施できるように日々努めている。	法人理念の他、事業所独自の理念には、職員間で協議し、「笑顔で明るくゆったりと、生きがいと安らぎのある地域に根差した家」を掲げている。職員其々が目指す目標として心を合わせ、理念に沿ったサービスを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	非常時に避難場所としてお店の開放をして下さるというお話を頂いたり地域の方から介護の質問を受けたり、子供たちに「ここはどういう所なの？」と聞かれたりしています。事業所が地域とつながりながら日々暮らしを続けています。	町内会の総会等に出席している。近隣とは散歩や除雪時など、普段付き合いができる良好な関係である。花や野菜のやり取りをし、住民から利用者を気遣う言葉や避難場所の協力申し出なども頂いている。職員は気軽に介護の悩みや相談に乗っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方の介護に対するの悩みや近所の子供が「こって何する所？」などと聞かれた時自分が分かる事は説明をしたり話を聞いたり答えたりと地域の人々に向けて活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の結果や自己評価は毎年運営推進会議で結果報告をして又避難訓練などを通じて気づいたことなどを話し合い、サービス向上に活かしている。	会議は、地域包括支援センターや消防署職員、地域代表を迎え、情報や意見を得て定期的に開催している。家族の参加は難しい状況だが議事録を送付し、事業所や利用者の現状を報告している。課題であった議事録の記載法を改善している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護を受けている利用者が多い為市の生活保護担当者との連携を図ったり、市の主催する会議に出席しサービスの質の向上に取り組んでいる。	介護認定更新時や保護課関連で、担当職員とは相談し合えるよう協力関係を築いている。市や区主催の連絡会議には管理者が出席し、サービスの課題や困難事項の各種情報を受け、運営面やケアサービスに反映している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度から身体的拘束等適正化委員会を設置して運営推進会議の時に話し合っている。又、研修会で学んだ身体拘束の事を職員に伝え正しく理解して身体拘束をしないケアにホームで取り組んでいる。	身体拘束等適正化に向けた指針を定め、運営推進会議内で適正化について報告し、併せて職員の伝達研修を行っている。家族にケアのリスクを伝えるとともに、拘束の無いケアの実践に取り組んでいる。グレーゾーンの場面も細心の注意を払い意識啓発を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は行われていない。又、虐待について研修会に参加して職員に伝え事業所内で今後も見過ごされる事がないよう防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度は協力医療機関のソーシャルワーカーや区役所の方や行政書士の方などから話を聞き必要な時活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約を結ぶ時は見学の時でも利用者や家族とよく話し合い不安や疑問点などに十分な説明を行い理解納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり苦情お問い合わせのポスターを貼り家族などが意見要望を表せる機会を設けている。又契約時にも口頭で説明をしてそれらを運営に反映させている。	利用者の状況の変化は電話連絡が多く、面会時や事業所の通信でも報告している。家族の意見や問い合わせには即答し、時間が必要な場合も出来るだけ速やかに改善策を講じるようにして、不安等を受け留め払拭できるように努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案が出た場合会議での話し合いや個別での話し合いなどの場を設けてサービス向上に反映させている。	施設長は介護現場に入り、日常業務を通して職員と率直かつ建設的に意見交換を行っている。直近では利用者の安全面に関する意見等が出され、検討し運営やケアに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は会社として処遇改善交付金など職員がやりがいを持って働けるよう環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社として知識などをレベルアップしてもらうため研修などを受ける機会を確保しスキルアップをするように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議やスタッフ研修など同業者との交流する機会積極的に情報交換をしてサービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学の時などに本人が困っている事や不安な事などに耳を傾けて説明をして納得して頂いてから契約をしている。そこから本人が安心できるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の時などに家族が困っている事や不安な事などに耳を傾けて説明をして納得して頂いてから契約をしている。そこから本人や家族が安心できるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずはその人の状況を聞き本人と家族がどういったサービスが一番いいのを見極めグループホームだけでなくその人に合ったサービスを勧めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員に対していつも言っている事は入居者が日々の生活を行いきない事を職員がサポートするという事なので暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは常に状況を伝えながら本人にとって一番良い方向へと導けるよう努めている。それにより本人と家族とホームが共に支えていくような良い関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の身体が弱ってもデイケアの職員と話し合い協力し合ってデイケアに行ってもらう。家族や知人の訪問や外出を受けたりと馴染みの人や場所との関係が途切れないような支援に努めている。	長年の馴染みの場であるデイケアは、先方スタッフと協力して本人の希望を支えている。遠方の親族、知人や宗教仲間の人達の来訪、年賀状交換も職員が手助けし、大切な人や場、個々の習慣などの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し職員同士で共有してトラブルにならないよう又孤立しないよう良い関係になるよう支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今でも以前入居していた家族の方からカーネーションを母の日に送って下さったり自分の事や家族の事を話して下さったりと良い関係が続いていてその中で相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々本人のペースを尊重した生活支援をするよう努めている。困難な場合も本人の納得できるような支援をするよう努めている。	一人ひとりの生活重視を職員が共通認識として持ち、一緒に過ごす時間の中で本人の気持ちの聞き取りや、家族とも話し合いながら意向を汲み取り、職員間で情報を確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族やご本人からのアセスメントをしっかりと行ったり又病院等の情報によりこれまでの経験等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方によって午前中は起きて頂き午後からは横になって頂くなどその方の有する力などに応じて一日の過ごし方等現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望も踏まえて介護支援専門員と職員が話し合いそれぞれの意見やアイデアを反映し家族にも納得して頂いたうえで介護計画を作成している。	介護計画は、本人の意向や家族の意見、医師等の助言を通して現状のニーズを導き出し、特に重度化傾向の利用者には、身体機能維持に留意し計画を作成している。見直し時には担当職員がモニタリングを行い、日々の記録でも計画に対する実践確認をする予定である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や連絡ノートで日々の申し送りなど情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の方が今何を求めているのかを把握しホームで対応できない事でもわかる範囲でアドバイスするなど柔軟な支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会や地域の方々に理解を頂きながら生活を楽しむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に6度の訪問看護による健康管理と月に1度の協力医療機関の受診により適切な医療を受けられるよう支援している。	協力医療機関から入居の利用者も多く、馴染みの病院である。毎月の診察の他、2名の訪問看護師が交替して月6回健康管理を行い、24時間指示を得られる体制である。歯科や他科の定期受診は職員が同行し、各病院と良好な関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に6度協力医療機関の訪問看護の方に来て頂き馴染みの関係の中で個々の利用者が体調や悩み要望などを話せるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際安心して治療ができるよう医師や看護師ソーシャルワーカーとまめに連絡を取り合い情報交換相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期の対応について説明している。又日頃から本人の状況を家族に伝えながら今後の方針を共有し地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に、指針を基に重度化や終末期の対応について説明し、同意を得ている。利用者の状態の変化やその先の状況、事業所の可能な支援など、家族と話し合いを行っている。関係者間で方針を共有し、できる限りの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当初期対応の訓練を消防の方より受け実践を身に着けるよう努力している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2度実施している。その中で地震水害等の対応の方法をお話して頂いたり運営推進会議の議題にも取り上げ地域との協力体制を築いている。	年2回消防署の協力を得、昼夜想定、出火場所を変えた避難訓練を行っている。非常時には近隣住民の協力も得られる体制である。水、食料等の災害時備蓄品を備え、防寒用備品も順次用意する予定である。	水害について、消防署の助言を得て避難訓練の実施を予定しているので、その取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴などプライバシーを損ねやすいケアではさりげない声かけや気配りをして一人一人の人格を尊重し対応している。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、本人の状況やその場に応じた言葉や対応に注意している。職員の利用者への接遇は優しく、入浴や排泄等の介助では羞恥心に十分配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望により日常生活の中でなるべく自分のしたい事が自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にその人がその人らしく日々を過ごされるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい髪染めや衣類の選択などその人らしい身だしなみやおしゃれが出来る様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けなど利用者の体調が良いとき一緒にいる。又一人一人の状況に合わせてながら刻みやトロミなどで工夫して美味しく安全に食べて頂けるよう考えながら提供している。	職員手作りの料理は、栄養バランスや形態を考慮したもので、職員も一緒に食事をし、ゆっくりと美味しく食事が出来るよう支援している。季節行事のメニュー、寿司や誕生会のケーキの取り寄せ、利用者と芋団子やおはぎを作るなど、利用者の好みやリクエストに添い、楽しみと満足に繋がる食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人によって水分量を考えて対応している。又食事でも一人一人の状況に合わせて量や形状などを変えて食べやすい状態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者一人一人の口腔ケアを一部介助見守り声かけなどでやっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人その人の排泄パターンを把握して日中や夜間どちらでもトイレの声かけや誘導の支援をしている。又その人によっては夜間だけ紙パンツを使用するなどなるべく自立にむけた支援を行っている。	建物内に5カ所のトイレがあり、時には他フロアのトイレを使用するなどして、利用者を極力待たせずに失敗への配慮をしている。全員の排泄状況を確認し、排泄感覚や機能が維持できるよう、立位が保てる限りはトイレでの排泄に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排泄の状況を毎日チェックしてリズムを見極め昼食にヨーグルトを食べて頂いたり少しでも歩いて頂いたり個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回を基本としているが状況によってシャワー浴や清拭も行ったり支援している。又ゆっくり入って頂くよう一日かけて入浴をしている。入浴の順番を毎回変えたり個々の希望に沿った支援をしている。	火曜と金曜を入浴日と決めているが、その時の状況によりシャワー浴や清拭など柔軟に対応している。浴室からは歌や楽しげな声が聞こえたり、一人でゆっくり湯船に入る人には見守りに徹するなど、その人の好む入浴法で楽しんでもらえるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の習慣や状況に応じて昼夜逆転しないよう又良眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が一人一人使用している薬の事を理解しており服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の希望に合ったしたい事やできる事をして頂き日々の生活で張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の状況や希望を考えながら個別での買い物、ドライブや季節のイベント等に外出するよう支援している。	車椅子利用の増加に伴い、以前のような頻繁の外出は難しいが、窓から季節の移ろいや近隣の様子を感じられる環境であり、外気を取り入れたりしている。近隣の散歩や通院時にカフェの立ち寄り、ドライブや近くの喫茶店訪問など、利用者の状況を見ながら、戸外に出て気分転換できるように工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望に応じて又その方の能力に応じてお金を所持したり一緒に買い物に行きお金を使うよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人との電話や手紙のやり取りができるよう要望に応じて支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員がその月の季節に合った貼り絵やお花や飾り物で季節感をとり入れて居心地よく過ごせるような工夫をしている。	3階建ての住宅改造型であるが、空間利用を工夫し、エレベーターを設置し、窓やベランダの配置により明るい日差しを確保している。共用スペースには利用者の作品や月ごとの装飾を掲示し、心和む雰囲気になっている。居間兼食堂のソファやテーブルのほか、廊下にもソファを置き、自由な居場所を作り、清潔面、音やにおい、温・湿度などの調整にも配慮をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	イスやソファを色々な場所に配置してそれぞれが思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の好みのものや家具などを置き服なども本人の好みに合わせて購入している。少しでも本人が居心地よく過ごせるよう工夫して支援している。	居室には、クローゼット、物干しの備付けや、ベットや整理ダンスの用意もあり、持ち込みの少ない場合も自室として安心できる設えになっている。家族の写真や退去利用者の思い出の作品も掲示して、本人が居心地良く過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人ができる事やわかる事を活かして食器拭きや袋たたみゴミいれの箱作りなどして頂いたりとその人らしい生活が送れるよう工夫している。		